

女性未来育成センター かわら版



平成27年8月18日発行

発行:愛媛大学ダイバーシティ推進本部女性未来育成センター

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>

TEL/FAX 089-927-8602 E-mail hime@stu.ehime-u.ac.jp

I wouldn't, but you can 【学生支援センター准教授 平尾智隆】



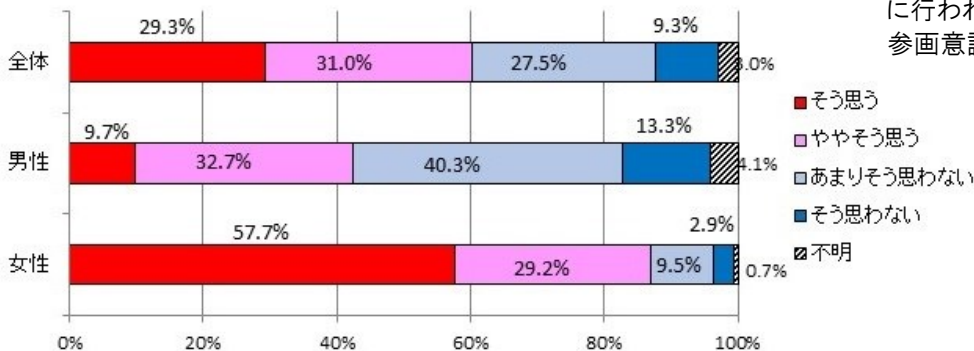
私は、平成25年2月下旬から4月下旬までの2ヶ月間、パパ・ママ育休プラスの制度を使い育児休業をとりました。愛媛大学でも、そして日本の中でも数少ない「男性の育児休業」取得者の1人になることができました。その期間は、私にとっては人生の中でも三指に入るくらいの貴重な時間・期間となりました。ちなみに、浪人、修士論文、育児休業です(笑)。

タイトルの言葉は、ある論文の表題なのですが、世間では両立支援やワーク・ライフ・バランスが叫ばれているのに、それに対する個人の意識・態度は必ずしもそうでないことをあらわしています。なぜなのかを考えてみましたが、やはり「男性の育児休業」の機会費用が高すぎることに一因があるのだと思います。現状では、休業中の直接的な収入だけでなく、昇進やその後のキャリア形成にネガティブ・インパクトになりかねないという懸念が払拭できません。社会保障と人的資源管理の実践の中でその費用を低めていくことが期待されます。

将来、子供が育児をはじめたら「お父さんは育児休業をとったんだぞ」と自慢！してみます。その時には、「そんなの当たり前じゃん」という返答がフツーであってほしいなと思っています。

数字でダイバーシティ☆⑧ 医学生の育休希望

Q: あなたは将来、育児休暇・育児休業を取得したいと思いますか？



平成26年度に、愛媛大学医学部1～4年生を対象に意識調査を実施しました。医学部では、近年、1年生の「新入生セミナー」や3年生の「社会と医療」で男女共同参画やライフプランについては、取り上げられています。

また、女子学生・女性研修医と女性医師の交流を目的に「マドンナサロン」が年に数回開催されていて、近年は授業で参加への呼びかけが積極的に行われていることもあり、女子学生の男女共同参画意識は高まりつつあります。

左のグラフは、将来、育休を取得したいと思うかをたずねたものです。女子学生の86.9%、男子学生の42.4%が取得したいと思っています。育休により「数ヶ月医療現場を離れること」「技術・知識面で遅れをとること」への不安の意見もありますが、男子学生も4割とはいえ、育児への関心が見られます。

えひめ女性財団調査研究助成金による調査より (松山東雲短期大学教授桐木陽子氏と女性未来育成センター郡司島宏美との共同研究)

えひめ男女共同参画のためのロールモデル

<http://www.pref.ehime.jp/h15200/rolemodel>

愛媛大学は、愛媛県によるロールモデルの派遣に協力しています。これまでもご活躍の杉浦美羽先生(プロテオサイエンスセンター准教授)に加え、今年度から新しく3人が選定されました。

●平尾智隆 (教育・学生支援機構学生支援センター准教授)

イクメンとして育児休業も取得する一方で、自身の経験を活かし、男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育を推進されています。

●土屋由香 (法文学部教授・女性未来育成センター長)

センター長として男女共同参画推進に取り組み、女性の評議員の一人として意思決定への女性参画を担われています。

●吉田一恵 (教育学生支援部長)

愛媛大学初の女性部長であり、事務系女性管理職の先駆者です。指導的地位に立つ貴重な女性のロールモデルです。



女性活躍推進の最先端の企業を知ろう！ 堀利栄 (理工学研究科教授・副センター長)

昨年「リケジョ応援企業」見学ツアーを始めました。女性活用に熱心な会社を訪問し現場の雰囲気を感じてもらおうと共に、学生の皆さんに「男女共同参画」が進んでいる企業でキャリア意識を育ててもらいたかったからです。訪問した「あわしま堂」(株)さんと「共栄木材」(株)さんとも女性活用に熱心で、社員を大切に共に会社を善くして行きたいという気持ちやその制度がある会社でした。人を大切にしている会社は男女共同参画なんて当たり前。女性が生き生きと働ける職場は男性にとっても同じはず。女性活用に成功している企業は事業展開にも成功していると言えるのでは？ その好例として東予コースで訪問予定の重松建設(ダイバーシティー経営企業100選受賞)があげられます。今回は、その重松建設さんをはじめ、県下における著名な企業の日本食研(株)さんや井関農機(株)さんへの訪問を予定しています。ぜひご参加ください。

『リケジョ応援企業』見学ツアー 東予コース

女性活躍推進の最先端の企業を知ろう！
見学先：井関農機・日本食研・重松建設

リケジョ応援企業見学バスツアーを下記のとおり開催します。
工場や職場を見学体感することができるのはもちろん、先輩社員さんたちから、今、企業が男女を問わず、どう人材を育てているのかを聴けるチャンスです。
文系理系、男女を問わず学生さんの参加者募集中！



日時：9月28日(月) 9:30正門前集合 17:30解散予定 (第2次〆切 9/18)

※リケジョ応援企業とは、女性の能力の積極的な活用に取り組んでいる企業です。

女性研究者エンパワーメント講座 【英語・実務編】アンケート実施中！

英語による論文執筆、研究発表、交渉等の力を伸ばすため、ワークショップ形式または実践的な研修の形式による講座(無料)を実施予定です。参加を希望される方々に合わせて日程調整を行って実施したいと考えており、女性研究者を対象に記名式のアンケート調査(スマートアンケート)を行っています。8月末が〆切です。ご協力よろしくお願いいたします。

1. 英語論文の書き方・投稿セミナー
2. 英語による研究プレゼンテーションセミナー
3. 世界とつながるEメールコミュニケーション
4. 英語によるミーティングの進め方セミナー

問い合わせ先：女性未来育成センター
hime@stu.ehime-u.ac.jp

四国5大学連携事業 共同研究プロジェクト支援2015

連携機関(徳島大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学)に所属する女性研究者間の共同研究プロジェクトに研究費を支援しています。2015年度採択者が決定しました。

「先天性心疾患の原因遺伝子変異の同定と病態解析」
江口真理子(医学系研究科准教授)
× 村田知慧(徳島大学大学院医歯薬学研究部助教)

「愛媛県内における放置人工林の広葉樹林化とそれに伴う土壌動物群集の変化」
鍋嶋絵里(農学部助教)
× 豊田鮎(香川大学農学部助教)

「大学生の保護者に関する調査研究」
野本ひさ(学生支援センター教授)
× 松本美香(高知大学農学部講師)

子育て中の方、介護中の方へ 国際学会参加費支援(国内開催限定)

四国5大学連携事業の一環として、女性研究者のライフイベント(出産・育児・介護)による研究中断からの復帰を支援するため「女性研究者国際学会参加費支援制度」を設けました。育児・介護休業から復帰して2年以内の女性研究者の方が対象です。公募により平成27年度中に国内で開催される国際学会への参加費(旅費は含まない)を上限5万円まで補助します。

第2回応募〆切 **平成27年9月30日(水)必着**
(予算の枠内で追加公募を実施予定です。)

詳細は、女性未来育成センターHPの「四国5大学連携事業ページ」をご覧ください。

編集後記 枝葉末説

イクメンという言葉が、すっかり社会に定着した昨今。「イクメンプロジェクト」「イクメン企業アワード」など企業も男性の働き方の見直しを進めています。もちろん、国も厚生労働省が夏の生活スタイルを変革しようと「ゆう活(ゆうやく)時間活動推進」を提唱しました。朝型勤務によって夕方に家族と過ごしたり、余暇を楽しむ時間を作ります。愛媛県でも8月末まで一部の希望職員に導入されています。



そんな中、2014年から始まったのが「イクボス・アワード」。「ボスの理解が社会を変える。」効率よくテキパキと仕事の時間も自分の時間も大切に、仕事のモチベーションもアップ。そんな部下を育てるのがイクボス。みなさんもイクボスを目指して下さい。(U2)

「ひめーる」女性未来育成センターの各種情報をメールマガジンでお届けしています。配信希望の方はこちらまで。
⇒hime@stu.ehime-u.ac.jp

